

科目	単位 (時間数)	時期	講師名 (職名) (時間数)		
母性の心理・社会学	1 (30)	1 学期	①中村 明美 (社会福祉士、看護師) (10) ②高井 弘弥 (教授) (10) ③川崎 二三彦 (児童福祉司) (6) ④松浦 和枝 (助産師) (4)		
目標					
助産実践に必要な母子及びその家族の心理・社会面の変化や行動発達、親性と家族の発達について理解できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
1	2	文化・社会・経済的要因が母子に与える影響	1) 母子の心理・社会をめぐる諸問題 ・女性のライフサイクルにおける心理・社会的課題 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ・少子化の社会対策と子育て支援施策	講義	①中村 明美  レポート試験
2	2			講義	
3	2		2) 性役割とジェンダー ・ワークライフバランス 女性労働と子育て	講義	
4	2		・性別役割分業と男性 (父親) の労働	講義	
5	2		・子供が健やかに育つための男女共同参画社会の実現に向けて	講義	
6	2	母性意識、母子関係の形成	1) 母性意識の芽生えと発達	講義	②高井 弘弥  レポート試験
7	2		2) 母子関係の形成 ・母親の育児に対する感情 ・乳幼児期の母子関係	講義	
8	2			講義	
9	2			講義	
10	2		3) 父子関係の形成 ・父性の形成と課題	講義	
11	2	現代家族の諸相と病理	1) 現代家族の抱える問題とその解決	講義	③川崎 二三彦
12	2		2) 児童虐待 ・児童虐待による死亡事例等の報告書の検証結果から		
13	2		・ジェノグラムについて		
14	2	周産期の女性の心理	1) 周産期のメンタルヘルス ・マタニティブルー、産後うつ病など	講義	④松浦 和枝
15	2	生殖補助医療を受ける女性の心理	1) 不妊治療を受ける女性の心理 2) 出生前診断をめぐる倫理的問題について		

授業形態	講義
評価方法 点数配分	レポート試験：指定期日の朝 8:50 を提出期限とする。 講師① 50 点 講師② 50 点 (レポート試験は講師①②をそれぞれの 6 割以上を合格とする) 他の事項については履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。
テキスト	講師①②③ ・助産学講座 4 講師④ ・助産師基礎教育テキスト 7
参考図書等	・児童虐待死亡事例等検証結果報告 (ホームページ参照) ・エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期・産褥期 2020 日本助産学会 (日本助産学会ホームページ参照)
備考	講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。